

消費者だより

2021年2月号

鏡やガラス玉で起こる

「収れん火災」に注意してください

太陽光がレンズや鏡により反射または屈折して1点に集まることを収れん現象といい、その場所に可燃物があると火災に至る場合があります。この現象による「収れん火災」の事故が多く発生しています。

事例1

部屋の窓際に手のひらサイズのスノードームを飾っていた。ある日、焦げ臭いと思ったら、スノードームの後ろに置いていた布製バッグが焦げて穴が開いていた。

事例2

ベランダに置いていた段ボールが燃えた。段ボールの上にはウォーターサーバー用ボトルが載せてあった。

事故防止のためのアドバイス

- ・窓際や太陽光が差し込む範囲には、収れん現象が起こる可能性がある鏡やガラス玉などを置かないようにしましょう。
- ・外出する際には、カーテンを閉めて遮光しましょう。
- ・車のガラスに付けた吸盤や車のタイヤホイールでも収れん火災が起きています。また、ペットボトルも収れん現象が起きます。車両や建物周辺にペットボトルや燃えやすい物を置くことは避けましょう。
- ・朝夕や冬場は太陽の高度が低く、部屋の奥まで太陽光が差し込みやすいので特に注意しましょう。

分からないことがあれば、消費生活センターへ相談してください。



千代田区消費生活センター

☎ 03-5211-4314 (相談専用)

月曜日～金曜日 9時30分～16時00分

(祝日、年末年始を除く)